



# 内館 牧子 講演会

## プロフィール

現職 脚本家

ノースアジア大学 教育諮問委員

ノースアジア大学 総合研究センター 客員教授

履歴 武蔵野美術大学 卒業

東北大学大学院 文学研究科修了

NHK大河ドラマ「毛利元就」・NHK連続テレビ小説

「ひらり」・TBSドラマスペシャル「塙の中の中学校」

他多数のテレビドラマの脚本を手掛ける。

## 「消えた歌の風景」

開講日時▶6月15日(土) 午後1時00分～2時30分 (開場 午後12時30分)  
会場▶ノースアジア大学40周年記念館 2階 271教場

### 講演内容

私は以前から、童謡や唱歌が歌われなくなったことを危惧していた。

たとえば「みかんの花咲く丘」「朧月夜」といった春の歌、「この道」や「われは海の子」など夏の歌、「まつぼっくり」「故郷の空」などは秋の歌だ。冬なら、かつての子供は「冬の星座」や「お正月」などは、当たり前で歌えた。

むろん、現代も歌い継がれている童謡、唱歌もある。「むすんでひらいて」、「荒城の月」、「どんぐりころころ」なども、現役である。教科書に載っている名曲もある。だが、消えた歌に比べると、その数は非常に少ない。

また「抒情歌」と呼ばれた歌を、私の周囲の五十歳代以下はほとんど知らない。「北上夜曲」も「さくら貝の歌」も聞いたことがないと言うし、「ローレライ」を知らないのにはがく然とした。

そこで月間『giorni』に、その後は月刊『清流』に、日本の名歌がなぜ消えたのかという連載を始めた。現代では消えた文化や風習などを歌い、消えても無理はないと思う曲もあった。だが、何とか歌い継ぐ手段(てだて)はないものかと思う曲も多かった。

本講座では具体的な曲を聴いて頂きながら、当時の日本社会、文化などの背景をお話したい。出席者の年代によって、知っているか知らないかの差は大きいはずだ。そして、時代に関係なく、これほどの歌詞、メロディが消えたか…と、衝撃を受けるはずだ。現実である。